



信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。 ヘブル12:2種入れをかかえ、泣きながら出て行く者は、束をかかえ、喜び叫びながら帰って来る。 詩篇 126:6

5

でみ 罪にとどまらば よろこびの後 ぉ 終わることのなき 苦しみ待てり。 主にある苦しみ 耐えぬきしなば こんれい うたげ 婚礼の宴 なれを待つなり。

6

## な みかみ がないの業を 成せし御神の あた 与うるむちこそ 愛のゆえならん。 せいか みちび 日ごとに聖化に 導かるためまた あゆ はげ 全けき歩みに ひたすら励まん。

7

よ う この世に生まれし すべての子らは おし う 教えを受くべく 定めらるごと か せいちょう と 人は刈りこまれ 成長を遂げ みくに い 8

大なん ほのお まり熱ければ 主難の炎の より熱ければ こころ しんじゅ そだ 心の真珠は とく育てられ いま みもと なれを知る方の 在す御許へ よろこびにあふれ 急ぎ帰りえん。

9

かんなん 患難をとおり 救われし民 えだ て しゅろの枝を手に 立てるを見るらん。 のぞ はな 望みを離さず ただ主と共に とも みひかり ではましまり かんの御光へ いざ進み行かん。

10

ついに主はなれの 心をまたき 望みにあふるる ものとしたもう。 救いをよろこび ながくちびるは あま